

第2回 品川区スポーツ推進計画策定委員会 議事要旨

- 日時 令和元年11月5日(火) 18:30～20:20
- 場所 品川区役所第二庁舎6階261・262会議室
- 議題
1. 開会
 2. 議題
 - (1) 区民等アンケート調査の調査概要および速報結果
 - (2) 計画策定に向けたアンケート調査の分析方針(案)
 - (3) 計画策定に向けたヒアリング調査の実施方針(案)
 - (4) 国や東京都のスポーツに関する政策動向
 - (5) 品川区長期基本計画素案(案)
 3. その他
 4. 閉会
- 配付資料
- 資料1 第1回 品川区スポーツ推進計画策定委員会 議事要旨
資料2 区民等アンケート調査の調査概要
資料3 計画策定に向けたアンケート調査の分析方針(案)
資料4 計画策定に向けたヒアリング調査の実施方針(案)
資料5 国や東京都のスポーツに関する政策動向
資料6 品川区長期基本計画素案(案)
- 参考資料
- 参考資料1 一般区民向け調査票
参考資料2 児童・生徒向け調査票
参考資料3 広報しながわ(令和元年(2019)10/1 2139号)

■議題（詳細）

1. 開会

事務局より配付資料の確認を行った。

2. 議題

(1) 区民等アンケート調査の調査概要および速報結果

事務局より資料2に基づき説明を行った。

○一般区民向け調査で、スポーツや運動を大切と考えている区民の割合について、国の参考値が示されているが、東京都の結果もあるのか。

過去1年間にスポーツを実施しなかった理由について、「年をとったから」が2位となっているが、年をとったからこそスポーツや運動が大切と考えている。

区の地域スポーツクラブを知らない区民の割合が示されているが、地域スポーツクラブの定義は何か。

障害者スポーツに関心がある区民の割合が東京都と比較して示されているが、区民に関心を持たせるためには、どのような取り組みが必要なのか検討したいと考える。

児童・生徒向け調査で、スポーツや運動をするのがきらいな理由について、「得意ではないから」が1位となっているが、自己肯定感が低いことが影響しているのではないのか。スポーツや運動をしていることと、自己肯定感との関連性を確認できないのか。

1日30分以上スポーツや運動を実施した児童・生徒の割合が示されており、資料説明では学校の休み時間も含まれるとのことだが、業間体操なども含まれるのか。また、学校では休み時間に身体を動かす取り組みを行っているのか。

障害者スポーツをやったことがある児童・生徒の割合について、国や東京都のデータはないのか。

○スポーツや運動を大切と考えている人の割合について、東京都の結果はない。

地域スポーツクラブの定義は、参考資料1の一般区民向け調査の問31で示す通りである。

自己肯定感とまで位置づけられる内容ではないが、類似した設問が児童・生徒向け調査の問4にある。この設問は、品川区の教育委員会が毎年子ども向けに実施している調査において設けられているものであり、これらの設問と、スポーツや運動の実施状況との関係性の有無は確認する予定である。

○統計データがあるわけではないが、多くの小学校では休み時間の外遊びを奨励している。マラソンや縄跳びの検定などを勧めている学校もある。

○中学校では、特別、業間運動を勧めているわけではないだろう。ただ、中学校の場合は部活動があり、文化部であっても地域との関わりの中でスポーツや運動に触れるケースがあるので、1日30分以上スポーツや運動を実施した生徒の割合は高くなっている。

るのではないか。

- オリパラ教育についてはいかがか。
- オリパラ教育については、特にブラインドサッカーに力を入れて取り組んできた。今回は5年生が調査対象となっているが、6年生を対象にしていれば、もっと数値が上がっただろうと予想する。例えば、ブラインドサッカー、ホッケー、ビーチバレーについては、全学校の6年生が必ず体験する機会を設けているためである。ただ、5年生でこれだけ高い数値となっているのは、多くの学校で体験会やオリンピックのビデオを視聴する機会を設け、積極的に取り組んでいる成果と考えられるだろう。
- 中学校では、学年別にブラインドサッカー、ホッケー、ビーチバレーを行っている。ブラインドサッカーは8年生で経験している。障害者スポーツは、区の会場がブラインドサッカーのため、パラリンピアンを招いて実技体験を行っている。
- 障害者スポーツをやったことがある児童・生徒が約4割もいることを評価していただきたい。単に障害者スポーツを知っている割合ではない。先程伝えた取り組みは、教育委員会と連携して取り組んできた。来年は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦機会もあるので、ますます関心が高まることが予想される。可能であれば、これまで品川区が力を入れてきた取り組みの成果として、障害者スポーツをやったことがある児童・生徒の割合を他の自治体と比べてみたい。
- 確かに、障害者スポーツに対する理解は高まってきている。また、区民の応援や支えがあってスポーツ実施率も高くなっている。この傾向が継続してほしい。
- 個人的なつながりで関係団体からボッチャの体験会を開催するために、お手伝い要員として呼ばれることもあるくらい障害者スポーツを普及している機会が存在している。
- 一般区民向け調査で、過去1年間にスポーツを実施しなかった理由について、「年をとったから」が2位となっているが、むしろ中高年を狙った取り組みを考えた方が良さだろう。中高年になると、健康上の問題により身体を動かすことに対する関心が高まると予想する。
障害者スポーツについてはもう少し改善が必要と考えている。例えば、聴覚障害者が利用できる施設がないという話を聞くことがある。温水プールや健康センターなどの施設を聴覚障害者が利用しにくいという話も聞く。区として対策を講じることができかどうか検討していきたいと考えている。
- 今日の会議では調査結果の概要が示されたが、これらの結果の他にも設問はあり、一つひとつの設問についての単純集計結果を把握したい。視点によって、結果の切り取り方も変わってくるため、全体的な結果を確認したい。それから今、学校が体育の授業等を通して目指している方向性としては、たとえ得意ではなくても取り組めるスポーツや運動に親しめる機会の創出に力を入れている。そういった背景もあるので、抜粋して結果を示した理由を教えてください。
- 確かに、一つひとつの設問の集計結果は気になるところだが、限られた時間の本会議

において、計画の策定および政策の検討にあたり大局的に実態を把握するために概要を示したのだろう。

- 品川区スポーツ推進委員会と品川区スポーツ協会について、それぞれどのようなスポーツを推進しているのか教えていただきたい。
- 品川区スポーツ推進委員会では、ソフトバレーボールやグラウンドゴルフ、ボッチャ、車いすバスケットボールなど、ユニバーサルスポーツの普及に向けて力を入れているところである。ただ、全てのスポーツ推進委員がそのスポーツを得意としているわけではないため、専門の人材を手配してイベントや教室等で手伝ってもらっている。我々は、区民がスポーツに親しむためのコーディネーターとして役割を果たしている。
- 品川区スポーツ協会は、種目別に 29 団体が登録されている。もともと、レクリエーション協会と体育協会が合併してできた組織であり、競技スポーツの団体が多い。
- 一般区民向け調査について、性別や年代別の傾向はどのようになっているのか。
- 現時点では、確かな結果をお伝えすることが難しいが、今後、各設問の集計結果を示すとともに、報告書も作成する予定である。

(2) 計画策定に向けたアンケート調査の分析方針 (案)

事務局より資料 3 に基づき説明を行った。

- 働き盛り世代の多くがスポーツジムに通っており、最近では自分の健康について意識の高い人が増えている。例えば、区で 24 時間利用できる施設の仕組みが可能になるのだろうか。区が担うのは難しいと予想するが、せめてそのようなサービスを展開するスポーツ施設への補助という仕組みなら政策として検討できるのではないか。
- 指定管理者も巻き込んだ話になるので簡単にはまとまらないと予想するが、どこまで可能なのかということを議論しても良いだろう。
- ラジオ体操は老若男女だれもができる運動である。公園や広場でラジオ体操が流れていると、その周りを散歩している人もつられて体操する光景を見かけることがある。ラジオ体操であればスポーツや運動が得意でない人も取り組めると思う。子育て世代の親御さんはなかなか外出できないことも考えられる。品川区には独自の体操もあるが、そのような地域に根差した体操に難易度の差を設けて youtube などへアップし発信・普及すると良いのではないか。17 時にチャイムが鳴る仕組みと同様に、品川区独自の体操を普及し、コンビニなどに QR コードを掲示し、身近なところでスマートフォンによりできるような仕組みが作れば、たとえ外出できなくても自宅でもできる取り組みになるのではないか。
- 確かに、身近なところで取り組める仕組みをつくるという趣旨は計画に反映できればと思う。
- 私の事務所と同じ建物内にほっと・サロンがあり、そこでは筋力トレーニングや太極

拳を実施している人を多く見かける。とても多くの方がスポーツや運動に親しんでいるので羨ましく思っている。指導者がいないと心配なため、指導者の育成や派遣にも力を入れることができると良いのではないか。地域で取り組みやすい環境づくりが求められるだろう。

- 全国どこでもだれでもラジオ体操ができるのは、これまでの積み重ねがあっただけである。とりわけ学校教育が重要な基盤を担ってきた。区で何か一つ、例えば品川音頭などを取り上げ、全区的に推進していくことは良いのではないか。学校教育の指導内容に含めることはできないが、何か一つ作っていくことはできるのではないか。
- 分析方針（案）の3番目「子どもに対してスポーツを推進する意義を確認するための分析」について、指導者によって子どもに与える影響は異なる。スポーツや運動をするのがきらいな理由をみると、上位に「疲れるから」とある。スポーツや運動は本来、遊びの延長線上にあるもので、楽しいもののはずである。体育の授業を通してスポーツが楽しいということを感じていると思うが、児童・生徒向け調査の問19では、指導者に求めることを尋ねている。分析方針（案）の3番目を進めていくと、次代を担う指導者像がわかるのではないかと期待している。
- 体育とスポーツとは、厳密に言うと少し性質が異なる。学校現場では、スポーツについて、部分的に経験する段階、全てを経験する段階、生涯をとおして選択できる段階に分かれている。体育に特化してしまうと性質が異なってくるので、体育とスポーツとの意味合いは整理していただきたい。
- 区では、体育の授業以外でもスポーツに親しむ取り組みを展開してきているので、これまでの取り組みとの関連性を踏まえることも必要である。学校で展開している取り組みと合わせて議論できればと思う。
- 運動部活動指導員のことなども含めて検討していきたいと考えている。
- 今の意見交換を踏まえると、児童・生徒向け調査の問9の解釈については注意が必要と考える。
- 体育とスポーツの性質の違いに留意して捉えるようにしたい。

（3）計画策定に向けたヒアリング調査の実施方針（案）

事務局より資料4に基づき説明を行った。

- 調査対象の（2）障害者団体について、どこを想定しているのか。
- 本会議の委員の団体をお願いしようと考えている。また、もし必要があれば来年度になってしまうが、追加ヒアリングを行うための予算を確保しようとしている。
- 障害者スポーツに関する実態については、東京都がここ2～3年の間で調査を実施しているため、その結果を踏まえて計画に盛り込んでいただければと思う。東京都の結果であれば、品川区の結果と捉えても差し支えないと考える。

- 調査対象の（１）区内で活動するスポーツ関連団体等について、中学校前後の意識調査も必要ではないかと考えている。
- 国が運動部活動に関するガイドラインを策定している。中学校の運動部活動の様子を把握し、計画にどのように盛り込むのか検討していきたいと考えている。
- ヒアリング調査の実施にあたっては、アンケート調査と関連性を持たせると良いのではないか。アンケート調査で把握しきれない実態、例えば未就学児の保護者やPTAの保護者たちなど、スポーツ実施率が低い層を対象にしたヒアリング調査が効果的ではないか。
- 現在、小学校で最も加入率の高いクラブはサッカーチームである。今後、子どもの取り合いが始まると予想している。いろいろな団体を対象にした意識調査も大切なのではないかと考えている。また、それらの団体だけではなく、学校体育と密接に関わりのある競技種目は水泳である。現在のカリキュラムでは、学校体育の授業だけで泳げるようにはならない。学校だけでは不足しているもの、それを支える団体に対するヒアリングも検討していただきたい。
- 実施できるかどうか検討させていただきたい。

（４）国や東京都のスポーツに関する政策動向

事務局より資料５に基づき説明を行った。

（５）品川区長期基本計画素案

事務局より資料６と参考資料３に基づき説明を行った。

３．その他

事務局より次回の会議について説明を行った。

- 中学校の運動部活動の実態を話す機会は次回ということによろしいか。
- 次回にお願いしたいと考えている。

４．閉会

以上